



シヨウガ(シヨウガ科シヨウガ属)

戸外で作業ができない冬季に、ストーブやこたつで暖を取りながら、春の作付け計画を立てることをストーブ園芸といいます。種苗会社からカタログを取り寄せると参考になります。掲載されている野菜の大半は、ベランダでも栽培できます。

多くの家庭の冷蔵庫にはワサビやからし、ニンニクなどのチューブ入りスパイスが常備されています。いつの間にかシヨウガもチューブ入りを使うようになりました。台所におろし金がない家庭もあります。子どもたちはシヨウガはチューブの中に入っていると思っているかもしれません。

春になったら、シヨウガをベランダで栽培しましょう。添加物のない、本物のシヨウガです。塊茎の大きさにより大・中・小



シヨウガがあり、大シヨウガには「印度」、中シヨウガには「房州」、小シヨウガには「谷中」などの品種があります。キッチンガーデンでは、小シヨウガを使用し、筆シヨウガ、葉シヨウガ、新シヨウガと順に楽しむと良いでしょう。

シヨウガは高温を好むので、4月下旬から日当たりの良い所で栽培を始めます。深さ15cm以上のプランターに市販の培養土を入れ、種シヨウガを10cm間隔に、芽を上にして植え付けます。種シヨウガは前もって、2〜3芽を付けて50gほどに分割し、2〜3日乾かしておきます。覆土は5cmとします。プランターにビニールを掛け保温すると、発芽が早まります。乾燥と過湿を嫌うので、水やりは朝夕に土の表面が乾く程度にします。追肥は1000倍の液肥を、灌水(かんすい)を兼ねて1週間に1度施します。小まめに増し土をします。

7〜8月に新芽の元に新しいシヨウガが付くので、種シヨウガを掘り上げないように手で押さえて引き抜き、筆シヨウガとして利用します。新しい根が少し肥大したら葉シヨウガ、初秋に塊茎が大きくなったら新シヨウガとして収穫します。



栽培計画	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
筆シヨウガ栽培			🌱				🍷					
(高冷地や寒冷地は20〜30日遅れとする)												
根シヨウガ栽培			🌱							🍷		
(降霜前)												
	🌱 植えつけ 🍷 収穫											

JAグリーン津店が教える！
シヨウガ栽培のポイント！

シヨウガは、収穫早期なら生食、収穫後期には香味に使える便利な万能野菜です。また、シヨウガに含まれる栄養素はビタミンA・ビタミンB・ビタミンCの他、カリウム・カルシウム・マグネシウムなどのミネラル類が豊富です。

● 連作障害

シヨウガは連作障害を起こすので、プランターの土は入れ替えることをオススメします。同じ土を使う場合は1年以上あけるようにしましょう。

● 水やり

上記のように乾燥に弱いため、特に梅雨明け以降の夏場は水切れしないように注意して水やりをしてください。

● 追肥

シヨウガの本葉が2〜3枚でき、草丈が15cmくらいに成長したら追肥します。この時追肥する肥料は有機肥料でも化成肥料でも構いません。株のまわりに追肥したら周りの土とよく混ぜ合わせておきます。草丈が30〜40cmくらいになった頃もう一度追肥します。それからは1か月に1回のペースで同じ肥料を追肥していきます。